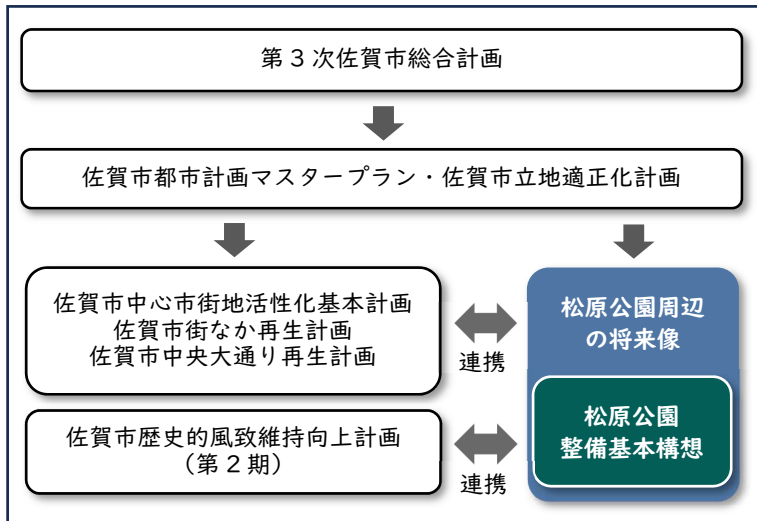


■上位関連計画の位置づけ

本構想は、「第3次佐賀市総合計画」や「佐賀市都市計画マスタープラン」、「佐賀市立地適正化計画」の上位計画に即するとともに、「佐賀市街なか再生計画」や「佐賀市歴史的風致維持向上計画（第2期）」等のまちづくり計画と連携し、より魅力的なまちづくりを推進するものとします。



■まちづくりの視点

佐賀駅周辺地区は、グローバルとローカル、駅とまちなかなど、各エリア間をつなぐとともに、人と人をつなげる拠点としての役割が求められています。駅前空間から、南北の拠点エリアへと人の流れを誘導し、駅と拠点エリアとの接続・連携の強化などを狙っています。



松原公園整備基本構想

概要版



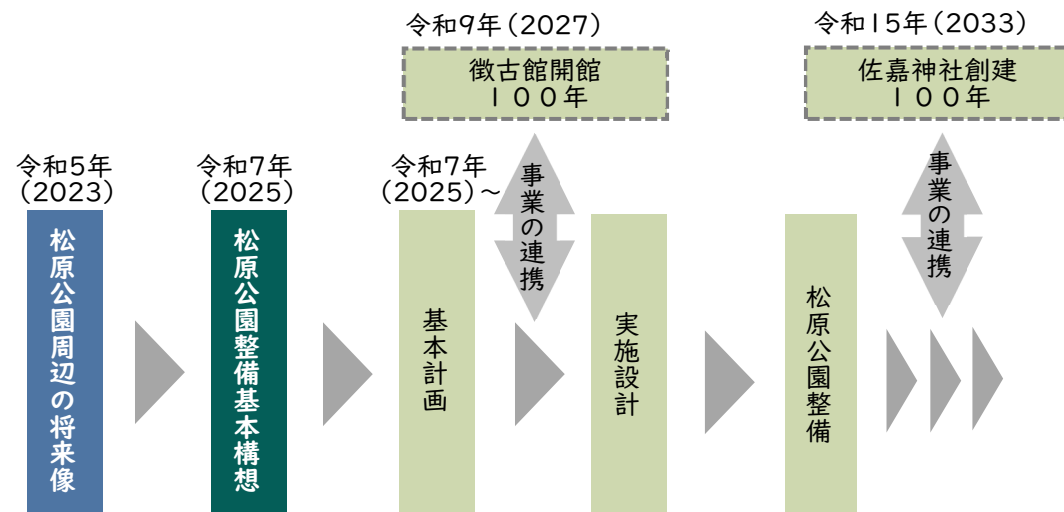
■松原公園整備基本構想の策定範囲

本構想では、松原公園周辺の広域エリアの位置づけを定めるとともに、松原公園整備の基本方針、整備イメージと基本構想図、松原公園周辺へのまちづくりの展開などを策定するものとします。



■構想の実現に向けて

市民県民からは日常的に訪れたい公園として、県外の来訪者からは選ばれる場所となるよう、関係者との協議を行いながら本構想の実現化に取り組めます。佐嘉神社・鍋島報効会・佐賀県との協議が今後も必要であり、松原公園整備と各連携事業とを調整しながら取り組めます。



令和7年(2025)3月
佐賀市

■背景と目的

松原一帯には、龍造寺家や佐賀藩祖らを祀る松原神社、10代藩主鍋島直正公、11代直大公を祀る佐嘉神社、鍋島家伝来の歴史資料などを所蔵・展示する徴古館があります。江戸時代には佐賀藩校弘道館が設けられ、大正時代には直正公の銅像や、佐賀図書館なども建てられ、人々が集まる文教地区でもありました。

松原公園は、第1期整備として、平成21年(2009)から徴古館前のエントランス空間の整備を実施し、平成23年(2011)4月に開設しました。

その後、令和2年(2020)11月に佐賀鍋島伝承遺産顕彰会の主催で、「鍋島文化を活かした佐賀のまちづくりを語る会」が開かれ、松原周辺の変遷をたどりながら、佐賀県知事や佐賀市長、鍋島報効会理事長らが、将来のまちづくり等について意見を交わしました。

これを契機として、次期公園整備の動きが本格化しました。

本市では、令和3年(2021)7月に「松原公園周辺における歴史と文化を活かしたまちづくり懇話会(以下「懇話会」という。)」を立ち上げ、令和5年(2023)3月に松原公園周辺の将来像と整備コンセプトを取りまとめました。

この度策定する「松原公園整備基本構想(以下「本構想」)」は、これらの背景を踏まえながら、歴史ある公園として、市民等が日常的に訪れたいと思える場所とするための基本的な考えをまとめたものです。

松原公園周辺の将来像

佐賀鍋島の伝統と、文化が息づく歴史体感エリア ~みんなで創り、未来へ紡ぐ“松原”~

第2期整備コンセプト

- ・憩いの緑や松原川の水辺を活かし、気軽に訪れたい場所として整備し、核となる松原神社・佐嘉神社・徴古館へと誘う
- ・まちなかからの動線や徴古館・神社との自由な往来を意識した整備

懇話会で取りまとめた将来像や整備コンセプトをベースとし、松原公園整備基本構想策定会議、アンケート・ワークショップなどで出た意見・キーワードをふまえ、3つの基本方針を設定。

■基本方針と整備の考え方

基本方針

魅力的な空間形成
「歴史と自然が織りなす、心惹かれる風景」

拠点性・回遊性の向上
「佐賀のまちをつなぐ拠点」

にぎわいの創出
「世代を超えて集う、交流と学びの場」

整備の考え方

①神社や徴古館、大楠等の歴史・自然を活かした美しい景観
・建物と自然が調和したデザインの導入

②松原川を活かした親水空間と川沿い散策路
・水辺で遊んだり、ゆったりとくつろげる親水空間
・惹きつけられる水辺の散策路

③神社と徴古館、県有地の境界を感じさせない、一体的な空間
・統一したエリアデザイン
・軸線を意識した動線計画と、境界のデザイン

④安全で居心地の良い、開放的な空間
・見通しの効く配置計画
・夜も楽しめる照明計画
・ユニバーサルデザインの導入

①まちのゲートウェイとしての機能
・佐賀のまちや歴史・文化の入口となる空間
・市民県民が日常的に訪れる場所に
・県外の方には、最初に訪れたい場所に

②城内、柳町、まちなかをつなぐ拠点としての機能
・動線を整備し、歩きたくなるまちに
・案内サインにより、他のスポットへのアクセスを促進

③まちに開かれた、誰もが気軽に訪れたい空間
・思わず立ち寄りたくなる空間整備
・通りから公園の様子が見えるデザイン

①鍋島家とともに育まれてきた、佐賀の歴史や地域性を感じられる場
・交流機能を兼ねたギャラリーや展示施設
・遊びと絡めるなど、柔らかく学べる仕掛け

②松原の歴史を現代に織り込む
・かつての銅像園や松原を新しい松原公園の要素として取り込み、歴史を学び感じられる場を創出

③子どもから高齢者まで、多世代が日常的に交流できる多機能空間
・広い芝生や子どもの遊び場(遊具)、親水空間
・子どもを見守りながら、みんなが憩える安らぎスペース
・気軽に立ち寄れるお店や飲食施設
・イベント利用も可能な広場などの配置

■整備イメージ

まちのエントランスゾーン

まちなかからの人の流れを松原公園へ誘導する、緑にあふれたエントランスゾーン

- 〈整備イメージ〉
- ・親水機能や休憩機能により、まちなかのオアシスとなるよう整備
 - ・樹木により、徴古館の背景を演出

- 〈利用イメージ〉
- ・地元の人や観光客がふらっと休憩
 - ・親水空間など自然の中で遊ぶ



シンボルゾーン

松原公園のシンボルとなり、歴史を感じることができるゾーン

- 〈整備イメージ〉
- ・銅像跡を表現し、歴史を学ぶきっかけを提供

- 〈利用イメージ〉
- ・待ち合わせ場所として利用
 - ・銅像跡の表現や説明サインから、当時の歴史を感じる



文化発信ゾーン

展示空間やギャラリー、カフェなどにより、まちの歴史や文化を発信するゾーン

- 〈整備イメージ〉
- ・鍋島家とともにあった佐賀市の発展を学ぶことができる場
 - ・日常的な休憩スポットであり佐賀の歴史文化に親しめる飲食施設

- 〈利用イメージ〉
- ・子どもが歴史を学べる、感じられる
 - ・観光客が佐賀市の歴史を知りに来る



ウェルカムゾーン

貫通道路(国道264号)や城内から興味を引き、人の流入を促すゾーン

- 〈整備の考え方〉
- ・道路から公園内を見通すことができる、南北の軸線を通す
 - ・松原公園の拠点となる文化発信ゾーンや広場ゾーンとのアクセス性を向上させる



水辺ゾーン

松原川の豊かな水辺景観を活かした親水空間のゾーン

- 〈整備イメージ〉
- ・水辺デッキなどにより松原川を身近に感じられる
 - ・水辺の散策路を佐嘉神社側までつなぎ一体的に利用

- 〈利用イメージ〉
- ・水辺デッキに座って休憩や飲食
 - ・水辺を散策して風情を感じる
 - ・松原川に降りて水遊び



広場ゾーン

佐嘉神社西側の社社林を背景としながら、日常利用を中心とした、さまざまな用途に利用可能な広場のゾーン

- 〈整備イメージ〉
- ・佐嘉神社社殿を眺めることのできる、見る見られる関係を活かした空間に
 - ・周囲の他広場と差別化した広場を整備し、一体的にも分けなくても利用できる空間に
 - ・佐嘉神社との動線を確保

- 〈利用イメージ〉
- ・子どもが身体を動かして遊ぶ
 - ・親は見守りながら休憩



仲見世ゾーン

仲見世のようにお店などがあり、人のにぎわいを創出するゾーン

- 〈整備イメージ〉
- ・常設店舗、仮設店舗スペース、休憩場所、通りなどの要素で構成
 - ・貫通道路(国道264号)や城内、バス停からアクセスしやすい空間に

- 〈利用イメージ〉
- ・食べ物や飲み物を買ってきて休憩
 - ・イベント時には店舗が並び

